

みづがきの神の御代よりさゝの葉をたぐさにとりて遊びけらしもあそびけらしも。

〔和漢三才圖會八十五〕箆 簾 同 小竹和名之乃、一云佐々、

按箆叢生如草俗用箆字出處未詳凡箆有數種

〔古今要覽稿草木〕さゝ

さゝは小竹の總名にして漢名を箆といひ野にあるを野さゝといひ藪にあるを根さゝといひ箱根山中に生するを箱根箆といふ錦抄地今處々の山野及堤坂上に數百步叢生しその高さ一二尺葉は女竹に似てやゝ小さし一種八丈箆あり其高さ僅に一尺を過ずその葉尋常のものと相似たり今松平越中守大塚の下邸にあり此種は西土にいはゆる趁箆の類にても有べきにや又隅田村に鎧摺のさゝありその高さ鎧より上に出る事なしと江戸砂子いへりその他種類なほ多し

〔書言字考節用集生植越王竹編多識

〔重修本草綱目啓蒙十草〕箆子ザ○中

又路傍ニ徧ク生ズル小ナル竹アリ高サ三五寸ニ過ギズコレヲ子ザト云是通雅ニ載スル所ノ千里竹ナリ

〔和漢三才圖會八十五〕箆子ザ○中

若芭蕉者恐此類矣略○中

馬箆子サ
燒葉箆夜木波俗云久末佐佐葉大一枝六七葉其大者尺許廣二寸至秋出縱文點黃白色甚美本草所謂龍公竹葉

〔重修本草綱目啓蒙十草〕箆チマキザクマザ子マガリダケ羽州一名白蘋葉方因

增一名箬竹葉閩書南